

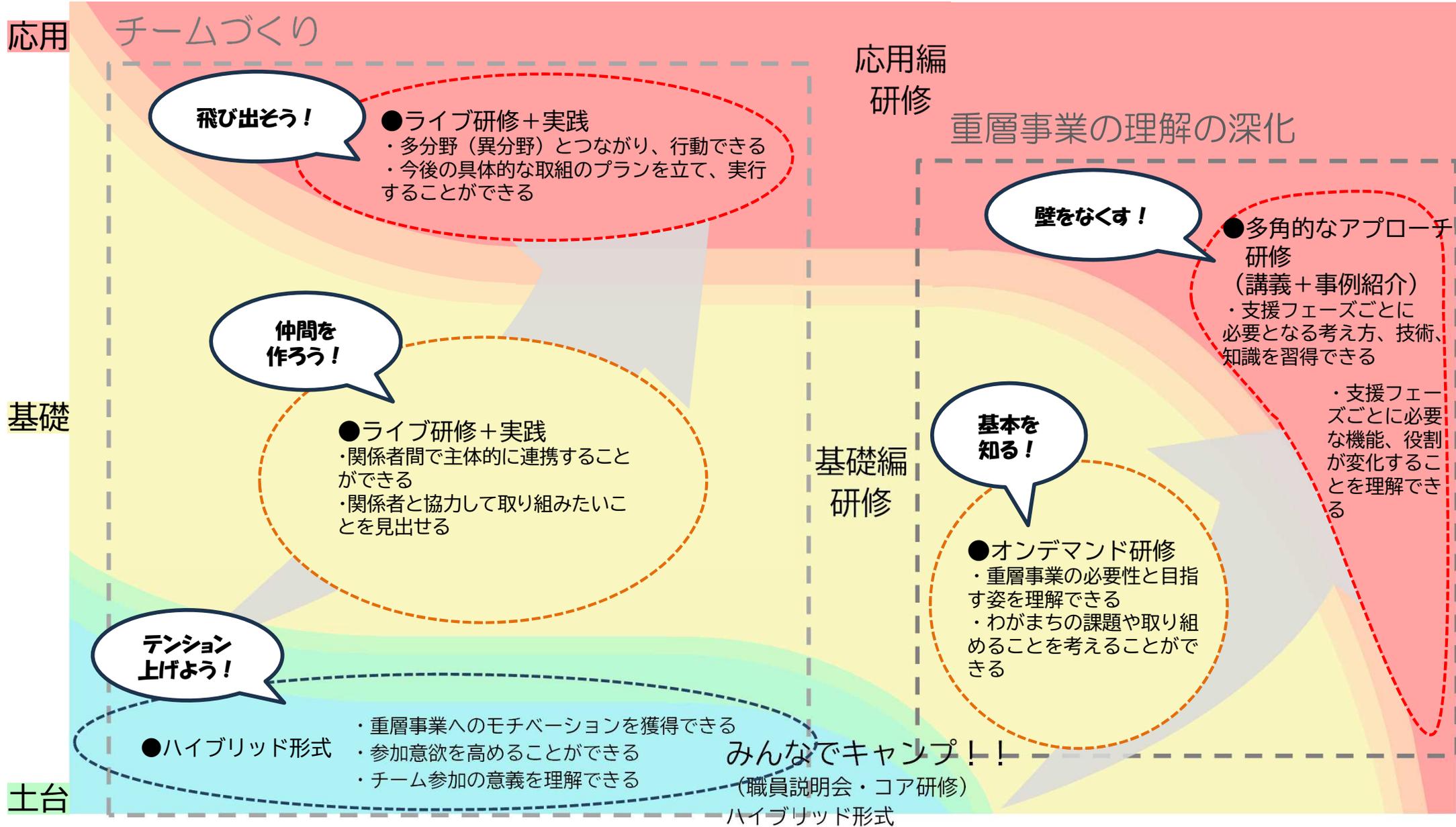
「みんなでキャンプ！！」  
＜キャンプファイヤー＞

今年の研修ラインナップ発表

「令和5年度 重層的支援体制構築  
推進人材養成研修・広報啓発事業について」

# 1. 令和5年度の研修構成

目指すべき到達地点：各市町村が重層的支援体制の構築を自走し、力強く推進することができる



# 2. 各研修の目的とねらい

- 本年度は、事業実施への意欲喚起、マインドセットを目的とした「みんなでキャンプ！！」、重層事業の基礎的な理解および庁内外関係者とのチームビルディングを学ぶ基礎編、異分野連携からの創発を学ぶ応用編の3コースを実施します。
- 市町村の状況や得られる期待効果を踏まえ、「みんなでキャンプ！！」は全自治体が受講。基礎編、応用編についてはそれぞれの自治体の実情に合わせ、選択受講とします。

## みんなでキャンプ！！

## 基礎編

## 応用編

対象

- 重層事業を実施する市町村及び支援機関等職員 ※全自治体参加
- 都道府県職員

- 重層事業を実施する市町村及び支援機関等職員 ※自治体による選択参加
- 都道府県職員

- 重層事業を実施している市町村及び支援機関等職員 ※自治体による選択参加
- 都道府県職員

日程

● 令和5年10月

● 令和5年10月～令和6年2月頃

● 令和5年10月～令和6年2月頃

主な内容

● ハイブリッド研修 10月

- ビデオ研修 9月～2月頃 (オンデマンド)
- Zoomによる集合研修 10～2月 (約半日×2回)
- 実践演習 11月～1月

- Zoomによる集合研修 10月～2月 (半日程度×2回)
- 実践演習 11月～1月

得られる期待効果

- 重層事業実施に向けたモチベーションを獲得できる。
- 参加意欲が高まる。
- チーム参加の意義が理解できる。

- 重層事業の必要性や考え方について、庁内外の関係者と共通認識を持てる。
- 研修プログラムの一環として、庁内外の関係者との対話の機会を持てる。
- 実践演習を通じて、庁内外の関係者と共同で地域の課題や資源、既存の取組の見直し等に取り組む機会を持てる。
- これらの機会を活かし、体制構築や連携に向けた具体的な活動につなげることができる。

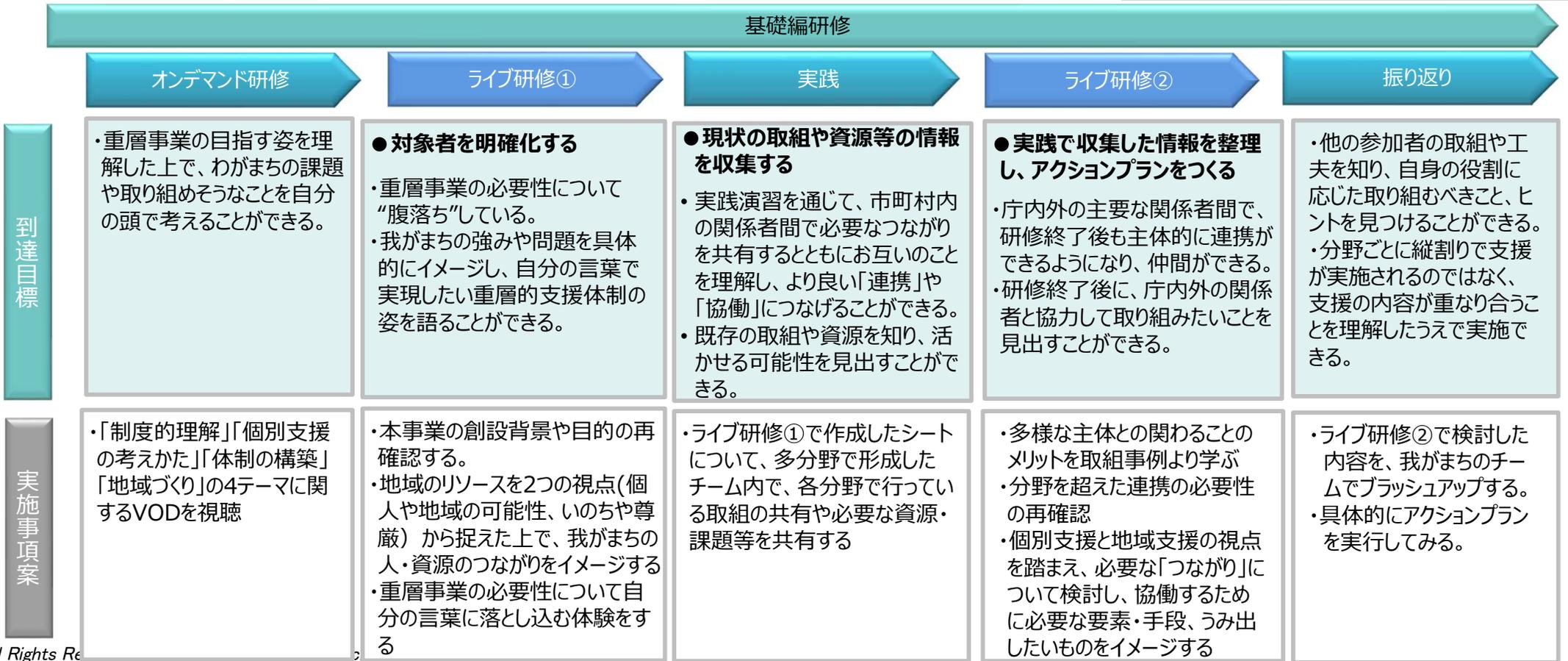
- 異分野連携による創発の理解
- 研修プログラムの一環として、異分野の関係機関との対話の機会を持てる。
- 実践演習を通じて、異分野の理解と協働して重層事業に取り組む機会を持てる。
- これらの取組を通して異分野連携から持続可能な地域づくり・まちづくりへの面的展開が理解できる。

# 3. 基礎編研修内容イメージ(予定)

## 予定コンテンツの概要

- 形式としては、ライブ研修①を受講後に地域実践。それを踏まえてライブ研修②につなげていきます。
- ライブ研修①では人と人がつながるために大切な適切な出会い方や、支援すべき人や可能性がひろがる人といった対象者像のイメージをチームで目線合わせします。
- ライブ研修②では既存の取組を把握したうえで、つながるために必要なリソースや連携先の検討を踏まえ、具体的なアクションプラン（連携する上でどこまで何ができそうかの検討）を作成する。

最終的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 重層事業の必要性について“腹落ち”している</li> <li>✓ 自分の言葉で我がまちの実現したい重層的支援体制の姿を語るができる</li> <li>✓ 庁内外の主要な関係者間で、研修終了後も主体的に連携が図られる。仲間ができる</li> <li>✓ 研修終了後に、庁内外の関係者と協力して取り組みたいことを見出すことができる</li> </ul>	対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和5年度に重層事業を実践する市町村及び支援機関等職員</li> <li>※令和3・4年度から事業を実施している自治体や、令和4年度研修を受講した市町村も希望すれば参加可能。</li> </ul>
--------------	---	----	---



# 4. 応用編研修内容イメージ(予定)

## 予定コンテンツの概要

- 形式としてはライブ研修と実践、フォローアップ研修を実施します。
- ライブ研修では実際に分野を超えた連携を行っている自治体の取組発表や演習を実施します。
- 現地実践では、地域へ出向き、多分野（異分野）の方と出会う中、つながりをつくっていきます。つながることでの効果ややってみたこと等を考えるきっかけとします。
- フォローアップ研修では、実践研修を踏まえ今後の多分野（異分野）との連携に向けた具体的な手法を学びます。

最終的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 多分野(異分野) 連携の必要性を理解したうえで、担当自治体での重層チームの未来像を具体的にイメージできる</li> <li>✓ 繋がりたい相手を明確化するとともに、つながるためにどのようなアクションが必要かプランを立て実践することができる</li> <li>✓ 重層チームでの今後の具体的な取組をプランニングし、動かすことができる</li> </ul>	対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 重層事業の開始年次は限定せず、地域づくりに取り組む意欲がある、また、悩みがある自治体</li> <li>• 参加者区分：市町村職員は必須だが、チームビルディング推進を踏まえ自治体内で参加者を検討</li> </ul>
--------------	---	----	---

### 応用編研修



到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多分野（異分野）連携により異なる価値観や視点からの気づきを得ることで、取組の可能性が広がることを認識する</li> <li>• 今のようなつながりがあるか整理した上で、つながれていないものに期待すること等の検討を通じて、目指すべき姿の実現のための「つながり」に対する新たな視点の獲得・必要性の再認識をする</li> <li>• つながれていない資源との間にどのような障壁があるのか分析・把握し、それを乗り越えるために必要なものや足りないものは何か見出す視点や手法がわかる</li> </ul>	対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 関係者間で今後のアクションプランを実行することができる</li> <li>• 継続的に地域に出て実践を行う必要性についてチームメンバーと認識を共有することができる</li> </ul>
実施事項案	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 包括的な支援体制を構築するための重層事業における多分野（異分野）連携の必要性を理解</li> <li>• 分野を超えた異なる価値や視点からの気づきを踏まえ、取組の可能性が広がることについて取組事例を共有</li> <li>• 自分の地域で多分野（異分野）との既存のつながりの整理や、つながれていないところへのアクションの考え方・取り組み方の理解（実践課題の狙いやアクションプランの検討）</li> </ul>	対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実践課題の共有及び、今なにができるか、今後どうなりたいかを検討</li> <li>• 障壁のあることへの戦略を立て、新しい出会いからうみだしたいこと等の新たなアイデアについてブラッシュアップする</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• つながれていない多分野（異分野）とつながる</li> <li>• 多分野（異分野）間でつながることによる効果について共通認識を図り、多分野（異分野）が持つ新たな視点を得る</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事後課題を通じて、「つながり」から生まれる様々な変化をチームで共有し、具体的な成果・効果や可能性の広がりをイメージできる</li> <li>• 段階的な体制の強化及び主体性を持って、取組を継続するためのプランを立てることができる。</li> <li>• 立てたプランをチームで共有し、実践するための体制を構築できる</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域へ出向き、重層事業やつながることでの効果について対話する</li> <li>• 実践してできたことと、できなかったことを整理する</li> <li>• 自治体内でつながることへの効果について共通認識を図る</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 参加者間で研修を振り返り、アクションプラン実現のためのロードマップを検討し、実行してみる</li> </ul>

## 多角的なアプローチ別研修の構成案

- 重層的な支援を展開していくうえでは、さまざまな機関や関係者が、分野・事業の垣根を越え、かつその時々に応じて立ち位置や役割を変えながら、有する機能を発揮していくことが求められます。
- 本研修では、このような個別支援や地域支援を進める中での様々な支援フェーズ（例えば、個別支援におけるアセスメントの場面、計画立案の場面、支援の実施の場面など）ごとに、各種事業やそれを担う関係機関・者がどのようにその役割・機能を変化し、発揮するのかを学びます。
- 令和5年度の「多角的なアプローチ研修」では次の内容を実施します。  
講義：支援フェーズごとに発揮される役割・機能が異なることの基礎的な理解を深める講義をオンデマンド形式で配信。  
事例紹介：「支援フェーズごとに必要となる考え方・技術・知識」に関連する事例紹介資料の配布。（講義時に事例紹介資料を紹介する）

### 講義における目標

- ・重層の理念や分野・事業を超えた支援が必要であることを理解する。（各事業ごとに分断されるのではなく、各事業は機能として必要であることを理解する）
- ・個別支援のフェーズごとに各事業のどの機能が必要か理解する。
- ・人、場面、資源からのつながりとしてどのようなものがあるか理解する。

### 事例紹介における目標

- ・実際の事例紹介から支援フェーズごとに必要となる考え方・技術・知識を習得する。（「支援フェーズ」、「多様な人・場面からのつながり」を意識した事例を紹介する）